

合理的ダイエットの 快適アクセス保証は オフィス利用者向け？ まだ高い月額固定の ダイヤルアップ接続



第8回
鯨インターネット編



東京インターネットは「計算された安さ」だそうだ。

あのバカ暑かった8月が終わったと思ったら、突然涼しい19月である。今年の夏は異常に忙しくて、落ち着いてスイカを食べる暇もなかったな～、と思いながら過ぎ去った夏……ではなくてインターネットマガジンのバックナンバーなんかを見してみる。う～む、私もずいぶんいろんな探検をしてきたもんだ……と感慨にふける秋の夜長、今月の探検先は東京インターネットだ。

◎ 恒例 広告チェック！

まずは例によって広告ページから電話番号を調べて申し込むことにする。が、ちょっとその前に広告の点検だ（どうも最近、このページはプロバイダー広告評論の気があるな）。

ここんちの広告のポイントは2つ……「技術もサービスも安心だから」と「計算された安さだから」である。

「技術もサービスも……」の方は「インターネットのプロたち（UBAのメンバーを中心とするパートナー）のノウハウが結集」とある。

「UBA」ってなんじゃろ？ と思ったが、後から送られてきたパンフレットによれば Unix Business Association の略で「中小の独立系ソフトハウスが中心になって、特定のメーカーに依存しない共通の情報基盤を構築する目的で組織」されたものだという。

こういうのって技術力っていう意味では分かるけど、インターネットが（回線の混雑じゃなくて技術の問題で）つながらないという話はあまり聞かないし、関係ないよね～と思って見ると、どうやらこれは専用線利用者に向けたアピールの色合いが強そうだ。

「サーバーの構築も頼みたい、情報提供をやりたいなどさまざまなユーザーの要望とインターネットに関するユーザーのレベル」に合わせて「個々のパートナーが持つ技術とサービスを組み合わせてダイナミックにプロデュース」「これが安心の形」という。

なるほど、私のようなダイヤルアップのユーザーには関係ないけど、企業なんかをもっと本格的にインターネットを使おうとすると、いきおいサーバーを立ち上げることになる。そんなときにUBAがパートナー

企業として、設置だとかメンテなんて面倒を見てくれるわけね。ナットク。

それに続いて「海外はBBN、国内はNSPIXPとの間に独自の専用線」、「運用はセコムセキュリティネットワークの開発・運用会社が担当」とか書いてある。

ま、セコムの安心パワーは分かるにしても、フツの人はBBNがARPANET以来のインターネットのパイオニアだとかく(じつは私もパンフを読んで初めて知った。でへへ) NSPIXPに接続するにはある程度の技術力が必要(これは前回のインタビューで学習)とか分からないっすよ。なんか一般向け広告のワリには「通」な表現である。

「計算された……」の方のポイントは「ボクサーのウエイトコントロールのように、苦しみながらも計算し尽くした」料金で「急なダイエットのように無理した安さとは違った確かさ」というところ。

だけど、料金表のダイヤルアップのところを見ると、電話網経由もISDN経由も月額19,000円の固定。これってプロバイダーがIIJだけのころだったらかなりインパクトのある値段だけど、プロバイダー雨後の竹の子状態の今となってはな~。本当に安いかどうか、疑問のあるところではある。

さて、とにかく担当編集者氏も締切を焦っていたので、まずは電話で申込書を請求する。

🌀 クロスワードパズルの謎

ところで直接関係ない話だが、ここの広告には「小さなクロスワードパズル」とかいうのが載っている。「安」という字が「田」という字の左上の一角に書かれていて、残りの3つの部分が空いているというやつ。

まあ、たぶん「心」と「価」くらいが正解なんだろう。こういうのって商品認知拡大のための懸賞広告なんかに多いんだけど、これは懸賞じゃないのね……と思って眺めると、右下のところに「答は『 』誌をご覧ください」と書いてある。ふ~ん、な

んか『 』誌の広告みたいだな~。なんで? とちょっと気になる。

ふつうなら、ちょっと気になったまま忘れてしまうのだが、そういえば東京インターネットって巻末の「商用ネットワークサービスプロバイダー接続マップ」にも当然載ってるんだよね~と考えて図を見たとき、この疑問は氷解。

東京インターネットにぶら下がる形で1つのプロバイダーがくっついている。このプロバイダーだが、なんとこれは『 』誌が最近かなり低価格を売りものに提供を始めたものなのだ!

ひょえ~、驚き……って驚くことはないか。ま、この手のやつつてのはストレートに書いてしまうと「うちは安さで定評のあるプロバイダー、 にも専用線を提供しています」ってことになるだろうけど、そういう書き方はしないわけね。という、やっぱりご祝儀告知みたいなことになっちゃうのかな? てなことを考えたりして……この連載をやってる間にすっかり業界スズメになってしまった私である(笑)。

🌀 同一料金で メールボックスは3つまで

電話から3日ほどして、A4サイズのでかい封筒が届いた。受付のおねーさんには「ダイヤルアップの申し込みをしたいんで、書類を送ってください」と言っただけなのだが、結構な量である。

中に入っていたのは、A4サイズのCorporate Guide、専用線IP接続とダイヤルアップ型IP接続サービスの説明ペーパー、推奨機器リスト、ダイヤルアップ型IP接続サービス利用契約申込書など。

これとは別に、小さなブックレットサイズの「翔べ、インターネットの彼方へ」(う~ん、これからインターネットの申し込みをしようというのに「彼方へ」はスゴイかも?)、それと同サイズの「東京インターネット・パートナーガイド」、「サービス約款」



「ボクサーのウエイトコントロールのように、苦しみながらも計算しつくした」料金だそうです。



電話から3日ほどでA4サイズのでっかい封筒が届いた。

NSPIXP: Network Service Provider Internet eXchange Projectの略。WIDEプロジェクトと商用ネットワークサービスプロバイダーの共同実験プロジェクトで、商用プロバイダー間やWIDEインターネット間とのトラフィック交換を目的とする設備。
セコム: 日本の大手警備保障会社の1つ。

ARPANET: Advanced Research Projects Agency NETWORKの略。インターネットの母体になった米国国防省ネットワーク。1970年代のはじめに設立された。

IIJ: インターネットイニシアティブの略称。

推奨機器リスト: ターミナルアダプターとしては沖電気工業社製の「PC-LINK TA」、PC-LINK/DSU、モデムとしてはマルテック社製の「MT2834-ZDX1」、マイクロコム社製の「V.34 ES28」があげられる。



月額固定料金の範囲で最大3つまでメールボックスが持てる。



「申込書受けとりました」とのFAXが届いた。いやはやご丁寧なご挨拶。

プロバイダー第一世代：商用ネットワークサービスプロバイダーの単分け。SpinインターネットサービスやInfoWeb、IIJなどを指す。

コネクト率：プロバイダーに公衆回線をつかってアクセスしたときに接続が成功する確率。「ビジョ」も参照。

テレホーダイ：NTTが開始した深夜・早朝時間帯の特定電話番号への月額定額料金サービス。

などが入っている。

リキは入ってるけど、なんかバラバラだし、量が多すぎてかえって混乱してしまう。ブックレットはおフロに入ったときにも眺めるとして、とりあえずダイヤルアップ型IP接続サービスのパンフレットを読む。

ポイントは4つで、最初は「割安な固定料金制」。

説明を読んでみると「1カ月のうち20日間くらいの勤務日に毎日1時間利用するならば、月間20時間（1200分）」と書いてあるように、どうやら最初からここんちは企業相手の発想だ。

「もし1分30円の従量制ならば、36,000円が月間利用料金になります。ところが、東京インターネットのサービスでは、利用時間にかかわらず月額19,000円の固定料金」……やっぱ比較の対象はIIJというか、プロバイダー第一世代なんだな。

詳しいことは巻末の「主な商用ネットワークサービスプロバイダー一覧」を見てもらおうとして、今となっては完全従量制1分10円というのも出てきてるし、また固定料金制の同じような回線条件で値段の安いところもたくさんある。

しかし最近、安さを売り物にしたプロバイダーのユーザーの間で「ぜんぜんつながらない」という不満の声が大きくなっているらしい。そういう意味で注目したいのが2つ目の「コネクト率の高いセンター側設備」というやつ。

「固定料金制による固定した料金収入をもとに、余裕のある設備を用意し、コネクト率を高めています。必要なときに確実につながる、これがダイヤルアップ型IP接続サービスの基本です」とある。

そそ、ごもつとも……。だけど、これは確率の問題だから精神だけ言われてもねえ。何アカウントにつき受け口幾つ……みたいな具体的な書き方をしてくれると、もっと説得力があるんだけど……。でも、ここんちのユーザーはどうやら法人主体みただから、最近話題の「テレホーダイ」を利用

するという手を組み合わせると深夜中心のヘビーユーザーにはメリットがあるかも？

次は「共同利用できる複数メールボックス」だ。

これは月額固定料金の範囲で最大3つまでメールボックスを持てるというもの。しかも1メールボックスあたり月額500円の追加で7つまで増やすことができる！

わお、これだと3人で使えば1人当たり7,700円、目一杯7人で使えば1人当たり3,000円じゃんかあ～……と思うかも知れないが、そうは問屋がおろさない。「同時に使えるのは1人のユーザー」としっかり書いてある。

だから、7人くらいのオフィスでインターネット用の回線は1本という状態（ま、誰もが通信回線を余分に1本持っているというオフィスも考えられないけど）という条件で、いわゆる時分割という形で使うことになるわけだ。

ま、実際フリーの私には関係ない話だ。というわけで、そそくさと申し込み書に書き込んで郵送することにした。

申込書の記入で難しいところは何もなし。「希望メールアドレス名」では、自分の好きな名前を英数小文字で8文字以内、第三希望まで書くことができる。

ただ、さっきから何度も書いているように、このダイヤルアップ型IP接続サービス利用契約申込書は基本的に企業向けに出来ているので、書込欄がやたらビジネスっぽい。個人ユーザーとしてはちょっとだけさびしい……。

◎ ご丁寧な確認FAXはいいけど

申込書を郵送して2日くらい、家に戻ってみるとFAXが来ていた。なんと「申込書受け取りました」的なFAXである。いやはやご丁寧なご挨拶……。と、それから5日くらいたって、封筒が届いた。ご丁寧なご挨拶からすると肩スカシ的とも思える定型

封筒である。

開けてみると「TokyoNet インターネットサービス開通のご報告について」……社長名でも会社名でもなく、サービスセンター長のご挨拶が入っている。ちょっと好感もてるかも。

さらに「ダイヤルアップ型IP接続サービス登録のご通知」、「ご利用時補足資料」、質問用FAXのサンプル紙という構成。これに加えて、こないだ申込書のときにも送ってきた「サービス約款」がまた入っている。バージョンが違うのかと思ったが、どうやら同じだ。うーん、なんかヘンだぞ~。

マニュアルはないの？ ないんだな、これが。

「ダイヤルアップ型IP接続サービス登録のご通知」にドメイン名やドメインネームサーバーIPアドレス、メールサーバー、ニュースサーバー、ftpサーバー、WWWサーバー、メールボックスのアカウント名とパスワードといったアクセスに必要なデータの表があり、その他には接続先ダイヤル番号（アナログ公衆回線とINS-64回線の両方）がある。でも、東京以外のダイヤルアップ用番号は書かれてない！

これって、インターネットをラップトップからダイヤルアップで使うとか、そういうことは考えてないわけね。ま、UNIXでインターネットという環境に慣れたUBAの人には、端末を持ち歩くってのも考えにくいものがあるんだろうな~。

さらに連絡先サービスセンターの電話番号、FAX番号、電子メールのアドレスが書かれているが、FAXでのご丁寧さからして、こっちは期待できるかもしれない。

それはそれとして、やっぱり環境設定は他のプロバイダーみたいに設定くらい説明したドキュメントは提供してもらいたいものである。

やっぱりこれだけでは使えないユーザーが多かったのか、「ご利用時補足資料」には、メールボックスの「パスワードの場合小文字、大文字、特殊記号が含まれてま

すが、内容を変更せず入力して下さい」といった基礎的なことが書いてある。

それにしても「設定時の不明事項などの質問方法について」という項目で「当社のサポートE-mailアドレスあてに質問内容をメールして下さい」はないと思うけど……。

◎初心にもどった設定編

というわけで、ここでお約束のTCP/IPドライバー設定の時間だ。このところ初心者向けに設定紹介をやっていなかったのも、今回は初心にかえってやってみよう。

Macintoshの場合、ネットスケープなどのブラウザやメールといったアプリケーションを動かすためには「MacTCP」と「MacPPP」が必要だ。

インターネットマガジン付属のCD-ROMに入っている「MacTCP」「ConfigPPP」「PPP」を「システムフォルダ」に重ねると、「これらの項目は、Macintoshで使うためにシステムフォルダの中の特定の場所に入れておく必要があります。それぞれ特定の場所に入れますか？」というダイアログが表示されるので「OK」をクリックし、インストールが終わったらシステムを再起動する。

「コントロールパネル」の中から「ConfigPPP」を開いて163ページの【図1】のように設定する。

まず「New...」をクリックすると「PPP Server...」に名前を付けるダイアログが出るので、「T-net」とか入力して「OK」をクリック（【図2】）。

「Config...」のボタンを押すと新しいウィンドウが出てくるので、【図3】のように設定する。私の場合はINS-64をPC-LINK TA経路で使うので「Port Speed」は38400。そのほかは図のとおりだ。

下の方にある「Authentication...」をクリックすると、さらに別のウィンドウ【図4】が開くので、「Auth.ID」には東京インターネットの書類にある「ダイヤルアップ



うーん、なんかヘンだぞ~。マニュアルはないの？



FAXのご丁寧さからして、サービスセンターのサポートは期待できるかもしれない。

ドメインネームサーバーIPアドレス：ドメインネームを与えるとIPアドレスを返すドメインネームサーバーのIPアドレス。

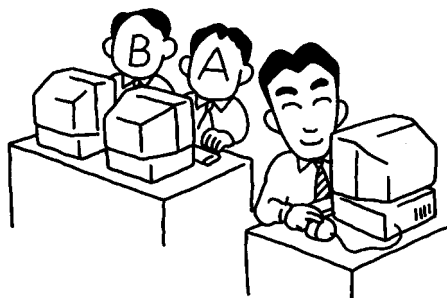
ftpサーバー：FTPのサービスを行うサーバー。

TCP/IPドライバー：TCP/IPプロトコルでの通信を可能にするためのソフト。ここではMacintoshでダイヤルアップIP接続するためのソフトである「MacTCP」と「MacPPP」を指している。

PC-LINK TA：沖電気工業製のターミナルアダプター。



ドメイン名は「magical.egg.or.jp」。新進のポップな会社向けのプロバイダーなのかな？



東京インターネットは、少人数のオフィスで使う場合なら考えてもいいのかな。

Hard Close：Mac PPPで接続を切るためのボタン。ほかに「SoftClose」がある。

ビジー：ダイヤルした番号の回線が使われていて「話中」の状態。プロバイダーはふつう多くの回線を代表番号に組んで使っているが、この場合はすべての回線が使われているときにビジー状態になる。「コネクタ率」も参照。

ログイン名」を「Password」には「ダイアルアップパスワード」を入力する。「Password」は自分のタイプしたものが「・」でしが返ってこないのので注意して設定しよう。

このほかはさわらなくていいので、「OK」をクリックして、「PPP Server」の設定ウィンドウに戻り「Done」をクリックする。下の方にある「Authentication...」以外の3つのボタンはさわらなくても大丈夫。以上で「MacPPP」の設定は終了だ。

「Port Name」には自分が接続しているモデムあるいはTAがつながっているポートを設定しよう。「Idle Timeout」は、「何分使わないと自動的に回線をオフにするか」の設定なので、切るときは確実に自分で回線の切断をするという場合は「None」にしておく。「Echo Interval」は「Off」のまま、「Hangup on Close」と「Quiet Mode」にチェックマークを付けておく。

今度は「コントロールパネル」から「MacTCP」を開き、ボックスの上にある「PPP」を選んでクリックする(【図5】)。次に「More」の部分をクリックすると別の画面【図6】が表示されるので、「お客様の使用するドメイン名」を「Domain」に、「ドメインネームサーバーIPアドレス」を「IP Address」に入力し、「Default」ボタンや「Obtain Address」の「Server」のボタンを設定する。

以上で「MacTCP」の設定はおしまいだ。電話線、TA、Macintosh がちゃんと接続されていて、TAの電源が入っていることを確認した後に、コントロールパネルから「Config PPP」を開く。「PPP Server」のところでは先ほど入れた「T-net」を選び、「Open」をクリックすると「MacPPP status」というボックスが現れて接続が始まる。うまくつながるとそのボックスは消え、「Config PPP」の中の2つの手が握手する。これでインターネットへの接続は完了だ。

接続を切る場合は「Hard Close」をクリックする。そうしないと、いくら月額固

定といってもNTTに支払う通話料金はどんどん上がってしまうから要注意！

基本的にはスモールオフィスむけ？

最近はいろんなプロバイダーが登場して、回線のタイプや課金方法、メールボックスなどさまざまなメニューが用意されるようになった。しかも全般的に価格は下がってきている。これはこれで喜ばしいことだけど、安いとか、固定制だということだけを基準に選んでしまえば、どうもビジーが多い、肝心の時に接続できない、といった経験をする人が多いみたいだ。

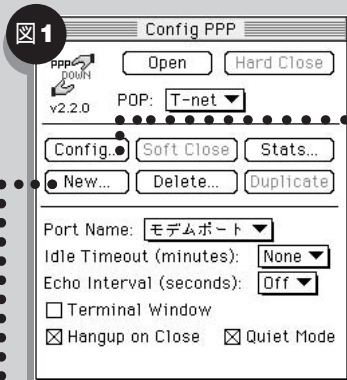
こうなると個人ユーザーとしては、ちょっと高くても確実につながるプロバイダー1つを選ぶか、安くてユーザーのまだ少ないところを常に渡り歩くか、あるいは二股をかける、みたいな自衛策を考えなきゃいけないようになってくる。

オフィスで使おうという人は、昼間の利用が多いので夜間のビジーは関係ないとか、ちょっとくらい高くても確実に接続できないと困るとか、個人ユーザーとは違った選び方があるんじゃないかと思う。それにビジネスで利用してるんだから、そんなに頻繁にメールアドレスを変更するわけにもいかない。

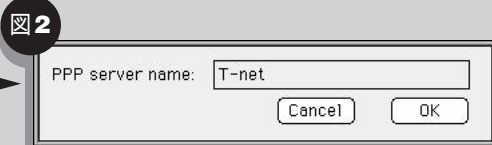
そういう意味では東京インターネットは安定して使えるところなのかもしれない。しかも複数のメールボックスが持てるというのが魅力だ。ただ、ちょっと気になるのはドメイン名が「magical.egg.or.jp」ってところ。こういうメールアドレスの人から堅い文章が来たりすると、なかなかヘンな感じがするんじゃないだろうか？ そういう意味だと新進のポップな会社向けのプロバイダーなのかな、とも思えてくる。

今回探検の東京インターネットは、個人ユーザーとしてはいまいちだが、もし少人数のオフィスで使う場合なら考えてもいいかな、という結論で終わりたいと思う。

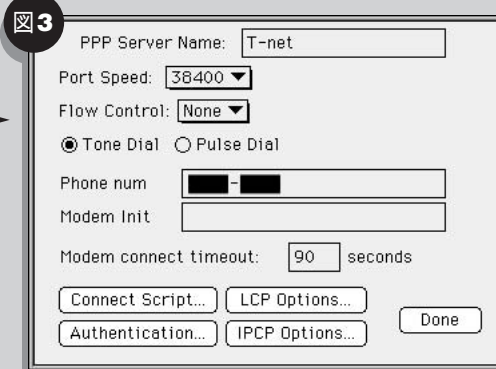
Config PPPの設定



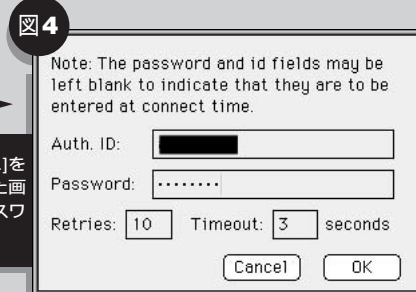
コントロールパネルの中から Config PPPを開いて“Port Name”より下の部分を上のよう設定する



Config PPPの[New...]をクリックして名前を付ける



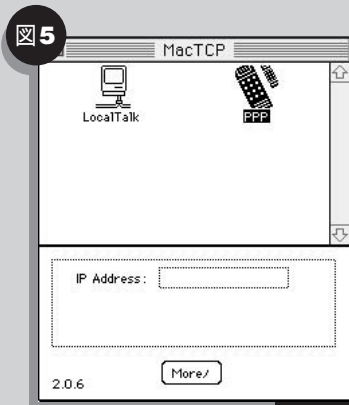
ConfigPPPの [Config...]をクリックして出た画面を左のように設定する



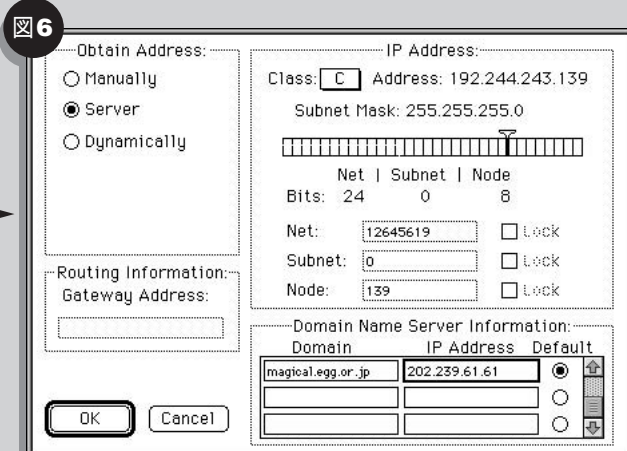
[Authentication...]をクリックして出た画面で接続IDとパスワードを入力する



MacTCPの設定



PPPが選択されていることを確認して[More/]をクリック



[Server]を選択し、[Domain]と[IP Address]を入力する



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp